

議 事 録

|       |                                                                                                                                          |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 会 議 名 | 第 2 回 淡路市都市計画マスタープラン策定会議                                                                                                                 |
| 開催日時  | 令和 7 年 3 月 1 8 日 (火) 1 4 : 0 0 ~ 1 6 : 0 0                                                                                               |
| 開催場所  | 淡路市防災あんしんセンター 多目的ホール                                                                                                                     |
| 出席委員  | 1 0 名                                                                                                                                    |
| 事務局   | 都市計画課、(株)地域計画建築研究所                                                                                                                       |
| 協議事項  | 1 市民・事業者アンケート結果について<br>2 まちづくりの課題について<br>3 現行計画の進捗状況について                                                                                 |
| 会議資料  | 資料 1 住民アンケート調査結果報告書 (概要)<br>資料 2 事業者アンケート調査結果報告書 (概要)<br>資料 3 現行計画の進捗状況報告書<br>資料 4 まちづくりの課題 (案)<br>資料 5 第 1 回淡路市都市計画マスタープラン策定会議 主な意見と対応案 |

| 発言者 | 協 議 内 容                                                                                                                  |
|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <b>1 市民・事業者アンケート結果について</b>                                                                                               |
| 座 長 | ○市民・事業者アンケート結果について、ご説明をお願いしたい。                                                                                           |
| 事務局 | 【資料 1、2 の説明】                                                                                                             |
| 座 長 | ○ 住民アンケート調査結果 (資料 1) 及び事業者アンケート調査結果 (資料 2) について説明があった。内容について不明点や補足が必要な点があれば、挙手をお願いしたい。                                   |
| 委 員 | ○ 住民アンケート調査結果 (資料 1) における回答者属性の年齢層について、郵送によるアンケートの回収率が 4 割弱であり、そのうち 6 0 代以上が 5 割を占めている。このことから、アンケート結果には年齢層の偏りがあると考えてよいか。 |
| 座 長 | ○ 市民の人口構成と比較した際に、高齢者の割合が適切かどうかについて質問があった。事務局に回答をお願いしたい。                                                                  |
| 事務局 | ○ 市民の人口構成と比較すると、住民アンケートの回答者はやや高齢者に偏っていると考えられる。                                                                           |
| 委 員 | ○ 調査結果の前提として、人口構成と回答者属性に違いがあることを明記する必要がある                                                                                |

|     |                                                                                                                                                                                 |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | のではないか。                                                                                                                                                                         |
| 事務局 | ○ 現況の年齢別人口構成と回答者属性には差異がある。また、お住まいの地域や居住歴などにも偏りが見られ、調査結果が地域の実態を完全に反映しているとは言い切れないため、調査結果報告書には注釈を記載する。                                                                             |
| 委 員 | ○ 高齢者の回答割合が50%であるが、他の地域でも同様の傾向が見られるのか。それとも他の地域では若年層の回答が多いなど異なる傾向があるのか。                                                                                                          |
| 事務局 | ○ 淡路市は他地域と比較して高齢者の回答が多い傾向にあり、回答率も3割から4割の地域が多い中で4割とやや高い。<br>○ 現行の都市計画マスタープラン策定の際に実施したアンケート結果では、回答者の約2／3が60歳以上となっており、今回の調査では高齢者の回答が若干減少している。                                      |
| 委 員 | ○ 無作為抽出のため、高齢者の回答が多くなるかどうかは抽出結果によるところが大きく、高齢者が多く当たれば回答割合も高くなる。一方で、もともと若年層が少ない地域では、自然と若者の意見も少なくなる傾向にある。また、アンケート結果だけが市の考えを決定するものではなく、偏りが生じることを前提に地域の状況や考え方の違いも踏まえた上で検討する必要があるだろう。 |
| 委 員 | ○ 数字だけを鵜呑みにしてはいけない。特に交通機関利用に関する設問で自家用車利用が86.7%、約9割と示されている場合でも、実際には買い物などで自家用車を利用できない人々が存在し、その問題が潜在化している可能性がある。そのため、表面的な数字だけではなく、実際の生活状況やニーズをしっかりと把握することが重要である。                   |
| 事務局 | ○ 回答者全体を集計した結果は一つの指標に過ぎないため、それを補完するために、年齢別や地域別のクロス集計を行い、より細かく分析する必要があると考えている。                                                                                                   |
| 委 員 | ○ 結果自体は修正する必要はないが、実態が十分に反映されていない部分があることを考慮し、この数値から何を読み取り、どの程度の重要性を認識するかが重要だろう。その上で、全体の計画づくりにどのように反映させるかについては議論が必要である。                                                           |
| 委 員 | ○ アンケートの数値は修正する必要はないと思うが、この結果が都市マスタープランにおいて、どのような位置づけで、どの程度実態に即した検討材料となるのかを考慮する必要がある。                                                                                           |
| 委 員 | ○ あくまで、どういった意見が多かったかを参考にし、最終的にまちの課題などにつなげていくことが重要である。                                                                                                                           |
| 委 員 | ○ アンケート調査結果については、次のステップで地域の方々に実態と異なる部分を聞                                                                                                                                        |

|     |                                                                                                                                                                                  |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | き、その意見を反映させることでより実態に即したものになる。                                                                                                                                                    |
| 座 長 | ○ 市民の方に誤解を招かないように、アンケート結果の留意点として、その偏りについて明記する必要がある。また、結果を尊重しつつも、どの地域でも回答者が高齢者に偏っていることを考慮する必要がある。この結果だけで計画検討を進めると、高齢者向けの計画に偏ってしまう可能性があるが、市としてどのように考えるか。                           |
| 事務局 | ○ 20年後の計画においては、若い人々の意見も反映させることが重要だ。若い人が住みやすい町になることで人口が増える可能性があるため、バランスをどこに置くべきかを見極め、その上で計画を検討していくべきだと考える。                                                                        |
| 座 長 | ○ 結果の読み取り方についての注意事項は記載する必要がある。<br>○ 若年層の意見も重要であり、いくつかの施設に関する要望が挙がっているため、これらを重視することが求められる。<br>○ 現在、規制の手段が不足している状況であるため、無秩序な開発を防ぐためには、一定の規制や誘導が必要だろう。                              |
| 委 員 | ○ 大人だけでなく中高生の意見を聞いてみるのも良い。アンケート調査票では規制の説明について触れられていなかったが、規制に対する悪いイメージが先行しているため、規制のメリットについても説明が必要だと思う。                                                                            |
| 座 長 | ○ アンケートはこれで終わりとして、若い世代の方への意見集約を代表的なところだけでも聞くことができたらよいと思う。規制だけでなく誘導・メリットを知ってもらうことも重要である。                                                                                          |
| 委 員 | ○ 若い世代の方に関心を持ってもらうことも重要だと思う。                                                                                                                                                     |
| 事務局 | ○ 若い世代の方の意見収集については、どんな方法が良いかは検討の余地があるが、エリアを集約して検討するのも一つの方法である。誘導や規制については、アンケート結果から課題が浮き彫りになり、その解決に向けて誘導や規制が必要かどうかを検討していく必要がある。現在は何もない状況なので、住民の意見をしっかりと反映できるような形でマスタープランを作っていきたい。 |
| 座 長 | ○ 具体的な規制の手段を導入したいところではあるが、今は規制や誘導の方向性を決める段階であり、その後に具体的な手段を検討することになる。規制の話は、土地の権利や操業環境等に影響を及ぼしかねないものであり、この場で手段について決定するわけではない。住民が納得できるような手段を検討していく必要がある。                            |
| 委 員 | ○ 淡路島ブランドを使えることをホテルや飲食店は注目すべきであり、計画に反映していくべきだと思う。                                                                                                                                |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|-----|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 座 長 | <p>○ 操業環境に直接影響する話ではないにしても、カフェなどが並ぶ中で交通問題が存在する。また、新しい店と古い店が混在しており、過剰に出店が進むとお互いにデメリットが生じる可能性がある。この点についても今後検討していく必要がある。</p> <p><b>2 まちづくりの課題について</b></p>                                                                                                                                                |
| 座 長 | ○ アンケート結果や現況を踏まえたまちづくりの課題について説明いただきたい。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 事務局 | 【資料４の説明】                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 座 長 | <p>○ 現状の課題と将来的な課題について、具体的な地域や市全体の視点で、委員の皆様からご意見をいただきたい。</p> <p>○ 淡路市の課題について、全市的な視点でご意見を伺いたい。特に、近年の急激な変化が市全体に与えている影響をどう捉えるかが重要だと思う。人口減少が進む中で、新たな開発や集積が難しい状況にあることは大きな問題であり、今後の予測が難しい点も課題の一つだろう。たとえば、民泊や観光、集落の問題など、地域ごとの課題をどう整理し、どこに拠点を配置すべきかを慎重に考える必要がある。まちづくりの課題について、不足している点や追加すべき視点があればぜひお聞きしたい。</p> |
| 委 員 | <p>○ 現行のマスタープランのまちづくりの市民参加について記載されたページを見ると、進め方や方向性が最後に記載されている。資料５にも記載されているが、ワークショップ形式で各地域の意見交換等を行うことが有効であると記載されていた。しかし、実際にはその方法が行われていなかったという事実があるが、なぜ過去１０年間行われなかったのかを確認したい。</p> <p>○ 資料４のＰ１１にある「コミュニティレベルのまちづくりが重要になりつつあり」という記載について、１０年前にすでに指摘されていた点を考慮すると、「重要になりつつあり」という表現は正しくないのではないと思われる。</p>     |
| 座 長 | <p>○ なぜ淡路市では「コミュニティレベルのまちづくり」がうまくいってなかったのか。</p> <p>○ ワークショップ形式で市民の意見を聞く機会がこれまであまりなかったのか、どれだけ実施しているのか、について前回委員会で質問した。市民協働センターを設置するとか、市民への共同参画の取組みなどあれば教えていただきたい。</p>                                                                                                                                  |
| 事務局 | <p>○ これまで地域との関わりが全くなかったわけではない。町内会組織が存在し、地域の方々からの要望を受けて課題を挙げ、解決に向けて取り組んできた。ワークショップの形式ではないが、地域とのつながりを持つ活動は行われてきている。</p> <p>○ 近年では町内会への参画が少なくなっている。志筑地域では参加率が６割程度となっており、少しずつフォローアップが増えてきているものの、過去１０年からの課題は依然として存在している。今後２０年の方針を考えた場合、町内会組織の旧来の形態を大切にし</p>                                               |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>つつ、これからの住民意見の集約がさらに重要になっていくと考えている。</p> <p>○ まちづくり協議会は、全国的にどの地域にも存在するだろうが、本市ではあまり見られない。問題が発生した場合や事業を進める際に、行政から組織を作るように呼びかけがあったが、自発的に設立された組織はあまり把握できていない。しかし、今回の改定を経て、地元の方々から自発的に組織を作ってもらえるようになれば、協働のまちづくりについて話を進めていくことができると考えている。</p>                                                                                                                                                                   |
| 委 員 | <p>○ 負担感を負わせることなく若い人々の意見をどう集めるかが重要な課題だ。旧来の方法を否定するわけではないが、意見聴取の方法に工夫が必要だと思う。例えば、地域の若い人たちが関心を持ちやすい形で意見を聞く方法を模索することが求められる。</p> <p>○ 先日、岩屋地域で木造建築が多く、道が狭い場所で火災が発生したが、そのような地域で空き家対策を含む方針が示されていた。このような現実的な問題を考慮すると、今後の防災計画を市民が中心となって考えていく必要がある。特に、南海トラフ地震のような大規模災害が起こった場合の備えが必要ではないか。</p> <p>○ 20年後を見据えた計画であれば、地域ごとの防災対策や空き家対策などの課題にも触れるべきだろう。</p>                                                              |
| 事務局 | <p>○ 地元の合意形成が重要と考えており、特に密集地の空き家問題など、地域全体でどう解決していくかを一緒に考えることが求められる。そのためには、町内会などの地域組織が重要な役割を果たすと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                     |
| 委 員 | <p>○ 都市計画マスタープランにおいて、市民の参画と協働が最も重要だと思う。しかし、町内会を通じた情報提供には限界があるという現実もある。特に、町内会の会長の任期が1年であるため、継続的な情報の共有が難しく、町内会全体に十分に話が行き届かないことがある。「市民に説明した」と言っても、実際には市民全体に届いていない。</p> <p>○ 市が持っている情報をどのように市民に公開するか、より効果的な方法を検討することが必要だろう。例えば、デジタルツールの活用や、定期的な市民説明会、各種メディアを通じた情報発信など、幅広い手段を組み合わせ、市民が情報にアクセスしやすい環境を整えるなどできると良い。</p> <p>○ 具体例を挙げると、先日、図書館で保育所の統廃合に関するワークショップがあった。このワークショップのように、市民の意見を幅広く聞く機会は、これまであまりなかった。</p> |
| 事務局 | <p>○ 地域との関わりが全くなかったわけではなく、町内の組織を通じて、都市部から地域への要望を受け取り、解決に向けて動いてきた。ただ、ワークショップのような形式は取らず、これまでのやり方で地域とのつながりを築いてきた。</p> <p>○ まちづくりを進めるには地元のまとまりが一番重要であり、そのためには、地元の組織づくりが欠かせないと考えている。町内会が主体になるのが理想だが、別の形で組織をつくる方法もある。</p> <p>○ 密集地の空き家問題は、大きな課題だと感じているが、こうした問題をどう解決していくのか、地元の人々と一緒に考えていくことが大切であり、地域の協力なしでは前に進</p>                                                                                               |

|     |                                                                                                                                                                                                                 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     | <p>まないと考えている。</p>                                                                                                                                                                                               |
| 委 員 | <p>○ 田舎では町内会の存続自体が難しい状況となっている。</p> <p>○ 繰上がりで会長が交代する形になり、町内会に情報を流さない方もいる。町内会ありきで進めるのは難しいが、これから住民の高齢化が進み、情報公開や共有が難しくなるため、地域内でリーダーを育成することが重要だと思う。県にも協力してもらい、リーダーが集まる場を設け、そこから情報を持ち帰り、地域に広めていくなどの施策が求められる。</p>     |
| 委 員 | <p>○ 私の所属する町内会では、問題が発生した場合、役員会に来てもらい、話を聞いてみんなで解決する方法で進めている。先ほど委員が言ったように、保育所の統廃合時にはワークショップも実施した。しかし、役員会では最終的な判断ができないため、町内会長に一任する形となり、最終的にはアンケートで決定した。また、土地を購入する際に会長の承認が必要だと言われたが、一人で決めることはせず役員会が判断するようにしている。</p> |
| 委 員 | <p>○ 町内会の実力や運営方法にばらつきがある場合、規約の作成など市の伴走支援が必要だと考えられるが、そのような支援を行っているのか。</p>                                                                                                                                        |
| 事務局 | <p>○ 広範囲で事業を進める際は、行政主導で組織をつくっている。そのような場合でなければ、地域で課題認識を持つ方が、自然発生的に集まることは難しく、過去１０年間でそのような事業がなかったため、まちづくり協議会の立ち上げも進まなかった。</p>                                                                                      |
| 委 員 | <p>○ 北淡地域では、県の補助金を活用して小学校区ごとに組織を立ち上げ、拠点整備や備品を調達した。社協や消防団、町内会長も参加し、顔を合わせる機会を大切にしながらイベントを実施した。町内会から防災に関する意見が出て、小さな公園などの場所や規模について多くの人が知らないことが分かった。それを受けて、町内会の協力を得て淡路景観園芸学校の方に調査していただき、防災セミナーを実施した。</p>             |
| 委 員 | <p>○ 補助金があつてこそその取組みであり、私の地域では小学校もなく、補助金もないため、状況は厳しい。さらに、行事も少なくなってきており、町内会の維持がますます難しくなっている。その中で、どうやって町内会を維持し、地域をつなげていくかが大きな課題だと感じている。</p>                                                                        |
| 委 員 | <p>○ 補助金自体は微々たるものだが、花植えなどの地域活動を実施すると、県からの情報提供がある。</p>                                                                                                                                                           |
| 委 員 | <p>○ 学校がある地域では、継続的に事業が行われている印象がある。</p>                                                                                                                                                                          |
| 委 員 | <p>○ 存続が難しいような町内会の場合、町内会ではなく、学校や大手企業に活動してもらってはどうか。</p>                                                                                                                                                          |

|     |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-----|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委 員 | ○ このような取組について、70代や80代の高齢者にはやる気がある人がいるが、50代、60代の方々は補助金をもらってもやりたくないというケースがある。このような状況が続くと、町内会の維持が難しくなる。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 座 長 | ○ P11(7) まちづくりや市民活動などについて、地域の実情に合わせた課題の書き方が求められる。従来型だけでない手法や地域差があることについて考慮が必要だろう。都市計画の中でどうできるか、できないかの判断は地域ごとの状況に応じて行う必要がある。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
| 委 員 | ○ P7、P8に関して、まちづくりの方向性として、10年、20年先を見据えた話になるが、若者の意見だけでなく、アンケートにおいて空き家対策や車の必要性についても触れられている。高齢化が進んでいく中で、高齢者が置き去りにされるのではないかという懸念がある。個人的な考えでは、高齢者を含め、住み続けられるような計画が必要だと考える。90歳になっても車を使わなければ生活できない状況が続いている。県道については公共交通が通っているが、そこにアクセスする手段がない。町内会で会議を開いた際、どこに行くにもタクシーを呼べば来てくれたが、実際には電話してもタクシーが来ないという問題がある。淡路市には多くの集落が存在しているが、20軒にも満たない集落もあり、限界集落ではこれまでの活動が続けられなくなっている。小さな集落では壊滅的な状況が起こりつつあり、ため池の管理なども難しくなっている。今後の計画を立てる際には、高齢者が住み続けられる環境を考慮した計画を作るべきではないか。 |
| 座 長 | ○ 市政の方向性として、外からの移住者に向けられた計画のように見えるが、実際に困っている地域住民への配慮が足りないのではないかと、という意見があった。<br>○ さまざまな世代からの多様な要望があるだろうが、その優先順位をどのように決めていくかを考える必要がある。都市計画マスタープランでその全てを詳細に書くことは難しいかもしれないが、どの世代も住みやすいまちづくりを基本として進めるべきだろう。                                                                                                                                                                                                                                            |
| 委 員 | ○ 資料4の市域全体に関する記載は、一般的な課題に見える。地域別の課題については別途検討すると説明されていたが、各地域の特徴的な課題が見えやすい形で整理されると良いと感じた。<br>○ 民間事業者の状況については予測できない部分があるが、事業者が進出してからの変化や影響について整理しておくと思った。                                                                                                                                                                                                                                                                                            |
| 座 長 | ○ 淡路市の現状を踏まえた課題整理については、現在事務局と検討中である。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| 事務局 | <p><b>3 現行計画の進捗状況について</b></p> <p>【資料3の説明】</p> <p>「土地利用の方針」については、2ページ、3ページに掲げる項目のいくつかを「見直し中」と評価している。これは、今回の都市マス改定の中で見直しを進めていきたいとい</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |

|           |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>委員</p> | <p>う意図で「見直し」としている。</p> <p>2ページの「見出し2」の列、2段目「住宅地」や3段目「商業・業務複合地」については、それぞれの用途を誘導する計画内容としているが、本市においては、既に様々な用途が混在した状態で集落形成がなされているので、この計画が本市になじむものか、今回見直したいという意図である。</p> <p>2ページ、4段目以降の「観光・交流地」や「農村環境保全地」、「自然環境保全地」、3ページの「森林・里山環境の維持・保全」、「水辺環境の維持・保全」については、「見直し中」としている。これらは現行計画を否定するものではなく、環境保全の在り方などについて、市民ニーズや今後の見込みを踏まえて、今回、区域を含めて見直したいという意図でそのような評価をしている。</p> <p>8ページ上段の「既成市街地の整備」については、現在の状況や今後の見込みを踏まえて、本市の特性に応じた、持続可能な再構築の在り方などを考えていく必要があるのではないかという意図である。</p> <p>その他の項目については、概ね現行計画に沿って進めているが、昨今の本市における社会情勢の変化を踏まえると、主に、土地利用の方向性について、一旦、この機会に見直したいと考えている。</p> <p>○ 進捗状況の整理について、計画変更を実施中の部分があるため、どの部分が見直しや変更されたのかがわかると良い。</p> |
|-----------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|